

けんしゅう だより ①



中央中等教育学校 授業研究・FEWC 推進部
学年研修①第1号 令和3年 5月 26日 発行

＊第1回公開研究授業後の学年別グループ協議・アンケートを元に作成しています。

＊スペースの都合上、ご意見同士をあわせたり、編集したりさせていただいた部分がございます。

1. ICT 活用例

録音・録画	意見交換・共有
<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介動画を撮影し、発音や発表の態度を客観的に見て、改善する。(英語) ・録音を共有、改善点のディスカッション。 ・動画を撮影し、自分の動きの確認。お手本動画と自分の動きの見比べ。 ・自画像のための自撮り。(美術) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スプレッドシートで生徒の訳を集約し、その場で確認。 ・Jamboard を用いて意見の共有。課題解決。 ・発表内容を google ドキュメントに打ち込んでもらって視覚的に共有。
ドリル・ソフト	情報収集・成果物
<ul style="list-style-type: none"> ・音声認識による発音ドリル。 ・楽典のドリルサイト活用。 ・ソフトを使って、グラフを描かせる。 ・Qubena (数学アプリ)を使ったドリル学習。復習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のテーマにそった事例の情報収集。 ・実験時のデータのグラフ化。 ・自由研究の発表、生徒の KP の代わり。 ・Google ドキュメント、スプレッドシートでレポート作成。
配信・提出・振り返り	教材提示
<ul style="list-style-type: none"> ・Classi Note や Classroom 等を利用して、課題を配信、その場で回答、その回答を共有。 ・授業内容についての質疑応答。PDF 配布。 ・休校期間中の授業動画。 ・家庭での少テスト+リフレクション。 ・Google フォーム・スプレッドシートで授業の振り返り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入時にテキストの背景知識を得させる。 ・文法説明の際のイメージ作り。 ・教科書・生徒ワークシート拡大、フラッシュカード、授業展開、入試問題、プリント、グラフ等の提示。作品鑑賞。 ・スライドに本文を写し書き込む。 ・Youtube、Google アース、教材ビデオ等の資料提示。



2. 課題探究型授業の実践例

社会科

- ・地理の国や地域調べ 及び発表。
- ・いくつかの史料(資料)をもとに、その時代の政治の特徴をまとめる。また、前後の時代と比較する。
- ・机上地域調査(地形図を読み、なぜこの形で発展したのかなどを考える)
- ・選挙について、年代別の投票率の違いが政策にどのような影響がでるか。
- ・入試の難問を設定し、グループごとにヒントを分けてジグソー法を用いた演習。

その他科

- ・他人の収納製品の設計を見て、よりよくなる。
- ・合唱コンクールの仕上げに向けてクラスで取り組む。
- ・グループ共同制作。
- ・マット運動の動きを動画で撮影し、お手本動画と見比べることで課題を把握し改善点を見つける。
- ・一人では気づけないこともあるので、撮影した動画をペアで見合ってアドバイスをする。
- ・自分で実験計画を立て、実験を行う。

英語科

- ・自分が行きたい国について調べ、スケジュールやそこでやりたいことを発表。
- ・教師の提示した例文や友人の発表文の優れた表現を、自分の発表文に活かし、質を高めていく。
- ・直接的に書かれていないことを協働的に読み取り、グループでシェア。
- ・リスニング教材の内容を聞き取ったあと、その答えに関してペアで調べ学習、発表活動の準備、発表。
- ・教員からの問いを自分ごとに捉えるためにサブクエストを自ら設定し、予め情報収集をしておき、答えを出しておく。その活動を通して、教員からのメインクエストにグループでベストアンサーを考える。
- ・留学生の今までの経験に合う日本のおもてなしプランを作成。
- ・教材単元のテーマに対して、各自のサブテーマを設定。情報収集、整理と分析、まとめと発表のプロセスを経験。

国語科

- ・小説の読解ポイントを各自で見つけるためにグループで話し合い、板書発表。
- ・短歌について調べ、班ごとに発表。自分たちが取り上げた短歌について授業。
- ・本文について自分たちで問を立てて、答えを考える。
- ・桐壺更衣を死に追いやった犯人を探る。
- ・百人一首(任意の30余首)から生徒が一人一首担当し、修辞・作者・文法・固有名詞等をスライドで解説。

数学科

- ・解答集は持参せず、生徒同士が話し合いながら答え合わせする。そのときにお互いの考え方を共有する時間を設定する。
- ・比例の単元で、A、B、C の水道の蛇口を開けて水槽をいっぱいにする場面の問題で、表、式、グラフを使った解き方をジグソー法により行った。



3. 学年別協議・振り返り

1 学年 小澤俊平先生 英語 A 1-1

①探究的な授業のしかけ

- ・英語科では何が探求なのかより良い表現はなにか、意見を出し合うのは探求になるのではないか。
- ・どの写真を使おうか、などに注力してしまうと技術科等の授業になってしまう。
- ・同じキャラクターを使った生徒に着目して、表現を比較させるのはどうか。
⇒キャラを限定して、表現の差に気づかせるという手もある。3つのアンパンマンの例を見せて考えさせるなど。
- ・他の人のスライドを同時に見られるのはすごく良かった。
- ・小澤先生の文に付け足す、など他の人の文に付け足してみる。付箋やコメントなどが使えても良い。
- ・10分で作って、他の人のを見てみて、自分のをさらに改善する時間を作ってもよい。
- ・うまくいけばすごく面白い。若いからすぐ慣れちゃう。三単現への気づきを与えられる。小澤先生のドラ○もんで作らせて、比較させる。気づき⇒探求
- ・GoogleSlide を使って課題に取り組むことで、他の人の表現を参考にしたり、自分の表現と比べたりして表現の幅を広げていた。振り返りも GoogleForms を使うことで、その場で集計し共有することもできると知った。

②しかけに対する生徒の学び、その他

- ・しかけに生徒はのめり込んでいた。生徒が楽しそうにやっていたのが何より。
- ・Google の他、辞書を使っている生徒もいた。Text Mining は意見の共有で使える。
- ・級友と比較する時間がとれると、より探究的な授業となった。
- ・同じスライドを1つに集約したことで他の人の作業が見られて良いと思った。

2 学年 A.レチャー先生 英語 C 2-1

①探究的な授業のしかけ

- ・be going to と will の使い分けの流れがスムーズ。使い分けとなる判断の根拠に明確な基準があった。
- ・ゲーム形式で競わせながら復習ができていた 間違っても大丈夫という安心感もあった。
- ・プライバシーが守られていて、答えがすぐわかるという安心感があってよい
- ・学習のサイクル・流れが確立されている。課題設定の難易度がちょうどいい。使うことが目的になっていない。

②しかけに対する生徒の学び、その他

- ・普段後半集中力を欠いた生徒が、ICT によって集中して自分のペースで最後まで取り組める。
- ・「もし自分が ICT を使うなら」…音楽だったら創作。ジャムボード(ふせんを貼るアプリ)も有効。グーグルの共有は、みんなで一つのもので作れるというのはよい。
- ・ICT は生徒の興味関心を引き出すのに有効。教室で情報やアイデアを即時的に共有したり、注意を向けたり、共有したりするのに便利。
- ・student engagement increases when review activities are personalized and students receive instant feedback.
- ・「ICT はあくまで手段なので目的にならないようにする」というのが印象に残った。「ジャムボード」「ロイロノート」など自分の教科にも活用できそうな情報を教えていただいた。教科の特性により可能性は無限大。
- ・思考判断(資料・分析)を行っていく仕掛けはいろいろな手段がある。自分の授業でも取り入れていきたい。

3 学年 足立晋先生 社会 3-2

①探究的な授業のしかけ

- ・調べてから実現の難しさを感じさせても良かったか。(ICT 活用の順番) 答えがないことへの探究で力がつくか。
- ・生徒に一例を挙げさせるので、よく調べていた。話を強制させたのはよかったか。
- ・ICT をどのような流れで使えば探究的な授業になるのかを学ぶことができ、授業を見直すきっかけとなった。

②しかけに対する生徒の学び、その他

- ・自分の授業でもクラスを自由に移動して話をさせる場面を設定することがある。しかし、一人ひとりの活動の詳細までは見取ることは難しい。本日座席を工夫して、腰を据えて話し合いをしている様子を見て、一人ひとりが発表の時間を担保されていて、それぞれが真剣に話をしていて、自分の授業にも活用したい。
- ・生徒は興味関心を高めると、どんどん意欲的に調べていくので、時間の確保がとてむずかしい。授業展開はいくつものルートがあり、先生方により考え方が多様で興味深かった。
- ・従来、授業で使う資料は教員が準備・提示していたが、どうしても教員独自の見方が入ると嫌いがあつた。今回の授業のように、生徒各自が資料を探索することで、より公平になるのではと感じた。
- ・ICT を活用した授業も探究型学習も生徒が生き生きと学ぶために必要不可欠になっているということ。

①探究的な授業のしかけ

- ・動画に残す→評価に使える。教員が授業中に聞いて回ることができないので、後でゆっくり確認できる。
- ・chromebook の同時編集機能を用いた授業展開。時間節約や意見の集約・周知など、様々な可能性がある。
- ・基本事項を理解した上で、探究型の授業をすると、理解がより深まる。先生から受動的に受け取るのではなく、能動的に学習を深める力は、将来生徒の力を飛躍させることにつながる。
- ・日々の授業のゴールを明確に設定されていることにも大いに刺激を受けた。
- ・リフレクションでメタ認知。retelling とは自身の映像を撮り振り返る効果。
- ・生徒一人ひとりが活動せざるを得ない授業展開も参考にしていきたい。
- ・自身のパフォーマンスを即時確認できることは、百戦して危うからず。

②しかけに対する生徒の学び、その他

- ・文法的な完成度より、まずは自分の考えをどんどん発表する姿勢が、積極性があってとても良いと感じた。
- ・普段、自己評価が良すぎる生徒もいる(「~できた」ばかり並べる)ので、自分に辛口評価をする生徒(現実を見て「もっと~しよう」)が増える。実際、そのように振り返りを書けている生徒もいた。
- ・A は学習面でつまずきがあるのかなど捉えていた(実は違った)。ペアの時、教科書ばかり見ていたので…。先生方から読解力があることを伺い、新たな一面を垣間見られた。
- ・今回の活動は本人の読解力や表現力に依拠する。A は協働できていなかったが、リテリングはお手本になりそうなほど上手にできてしまった。多様な語彙を操っていた。
- ・途中、生徒へのヒントに、ホワイトボードへ感情表現の単語を書いた。B はペアで協力し合うというより、隣の C の話を聞いて「わかった」。この活動がないと B は一人でできない。ホワイトボードの単語見て言えた。

①探究的な授業のしかけ

- ・視覚で文字を共有できたのが良かった。聞き取りにくくても分かりやすい。
- ・JAM BOARD の使い方を学べた。ふせんにコンパクトにまとめることで表現の工夫が自然にできる。
- ・生徒自身の考えから出た、creative な答えが出てこなかった。生徒が創造性を発揮するために、教員がどう働きかけるか引き出しがまだまだないことがわかった。

②しかけに対する生徒の学び、その他

- ・共通点を見つけるという活動を通して、必然的に他者の文章をしっかりと読み、よく考えるという活動ができていた。
- ・さまざまなアプリがあり、自分の授業に使えるものを探したい。
- ・探究的な場面をどう設定するか、教科の特性の差も含めて難しい。
- ・現状では、教員も生徒も活用スキルは途上。生徒の ICT スキルを向上させるためにも、試行錯誤しながら授業で ICT を導入していかなければならないと感じた。
- ・生徒の ICT スキルは想像以上に低く、させたいことがスムーズにできない現状もある。日常的に慣れさせたい。

①探究的な授業のしかけ

- ・実験の結果導き出される結論は知らせずに生徒は実験の実施+観察し、考えをまとめ、最後レポート(classroom 上)を提出するというサイクル。探究的な授業に必要とされる全てのサイクルを含んでいた。
- ・生徒は自分で実験の結果について考え、結論を導き出すように授業が組まれていて良かった。
- ・密を避け、実験者(教員)の手元を確認させるために授業中に google meet を使用していた。また実験の手順について事前に PPT を生徒に配布しており、手元で実験手順を確認しつつ、実験の様子を見ることができていた。

②しかけに対する生徒の学び、その他

- ・座学で得た知識を、実験を行うことにより自分事とすることができていた。自分で実際にやってみることは大切。
- ・物質の化学反応を実際に目にして、生徒からは驚きの声が上がっていた。実感を伴うことで理解が深まっていた。
- ・座学で学ぶことを実践形式で学ぶと、知識の定着が深まる。また、実験の結果、違う反応が出てきても、それが失敗ではなく反応の一つとなっていることも理解できる。実験で生き活きる生徒が多かった。
- ・ICT の活用について、講習会等があると勉強になるので、そのような研究会とか講習会を教えてもらいたい。
- ・単元あるいは授業の中の、どういうタイミングで ICT を利用するかなどの工夫が必要。
- ・答えのない問いにどのように向き合うのかの難しさと考える有用性を学んだ
- ・生徒が ICT 機器の使用に慣れている。特に話し合い活動が制限されている中では、良い活用ができる。
- ・ICT を活用すると、探究型学習に対する生徒の取り組みや評価が可視化しやすいことが改めてわかった。